

授業コード	80000201	実務家教員による授業	-
授業科目名	国際経営特論		
授業担当教員	植松 康祐		
成績担当教員	植松 康祐		
開講年次	1年	開講期	前期
		単位数	2単位

授業の目的・概要

これまで日本が得意としていた経営戦略が崩壊している傾向がある。近年大きく変化する国際情勢を踏まえた、サプライチェーンマネジメント（SCM）の方向性についての議論を行う。新興国などの賃金上昇、日本国内の高齢化問題、気候変動やパンデミックなどによる影響を受けるSCMの最適設計を検討する。

到達目標

1. 現在の国際情勢を理解するために、各国の状況を把握する。
2. SCMの現状把握を行う。
3. SCMの問題点に関する考察を行う。
4. 海外投資戦略に関する理解を深める。
5. 企業が継続できるためのリスク管理を検討する。
6. 今後日本が生き残れる産業に焦点を当てる。

授業計画

教員がデモンストレーション的な発表を行うので、各自テーマにあわせたPPTにおける発表を準備する。全員でテーマに関する情報を共有して、国際経営に関する知識を深める。プレゼンテーション能力の向上も養う。

事前事後の学習

与えられた文献を理解し、そのテーマに関した情報をPPTにまとめて発表の準備をする。派生する知識や情報をまとめて発表する。

課題に対するフィードバックの方法

発表に関する質問等を全員で検討する。不足する情報の収集と追加課題報告を要求する。

成績評価の方法・基準(方針)

発表内容を評価する。
与えられたテーマに関する情報収集能力とプレゼンテーション能力を評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	100	発表内容、提出物、PPT	1～6 議論に耐えられる情報 収集
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	資料配布
参考書	本当にわかる世界経済 著者:井上恵理菜 日本実業出版社
履修条件・他の科目との関連	経営学特論、マーケティング特論

授業コード	80003101	実務家教員による授業	-
授業科目名	特別研究Ⅱ		
授業担当教員	植松 康祐		
成績担当教員	植松 康祐		
開講年次	2年	開講期	前期、後期
		単位数	4単位

授業の目的・概要

修士論文作成を目指して、テーマを絞る。先行研究を踏まえて、自分独自のオリジナリティ性を論文の中で表現する。

到達目標

1. 先行研究などのデータを蓄積する。
2. 有効な仮説の設定を行う。
3. 仮説の立証により、独自性を出す。

授業計画

1. 事前に調査した題材に関して、議論を行い、テーマに関する理解を深めてゆく。
2. そのテーマから派生する事象に関する議論を行い、新しい研究テーマとなり得るかを検討する。
3. 自分なりの仮説を設定して、その仮説の立証が可能であるかを検討する。
4. 修士論文の完成を目指す。

事前事後の学習

毎回の課題に対しての報告を行い、事後には更なる発展を検討する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の発表やレポートに関して、必ずコメントをつけてフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

調査内容や報告書によって評価する。最終的には、修士論文発表会で評価される。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	35	毎回の報告内容で評価を行う	1.2.3
授業外での評価	35	事前・事後の報告書の評価する	1.2.3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	修士論文を評価する	1.2.3
その他	0		

テキスト	特に指定しない。
参考書	講義中に示す。
履修条件・他の科目との関連	研究調査特論と特別研究Ⅰを必ず受けていること。

授業コード	80003102	実務家教員による授業	-
授業科目名	特別研究Ⅱ		
授業担当教員	岡本 容典		
成績担当教員	岡本 容典		
開講年次	2年	開講期	前期、後期
		単位数	4単位

授業の目的・概要

修士論文作成を目指して、テーマを絞る。先行研究を踏まえて、自分独自のオリジナリティ性を論文の中で表現する。

到達目標

1. 先行研究などのデータを蓄積する。
2. 有効な仮説の設定を行う。
3. 仮説の立証により、独自性を出す。

授業計画

1. 事前に調査した題材に関して、議論を行い、テーマに関する理解を深めてゆく。
2. そのテーマから派生する事象に関する議論を行い、新しい研究テーマとなり得るかを検討する。
3. 自分なりの仮説を設定して、その仮説の立証が可能であるかを検討する。
4. 修士論文の完成を目指す。

事前事後の学習

毎回の課題に対しての報告を行い、事後には更なる発展を検討する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の発表やレポートに関して、必ずコメントをつけてフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

調査内容や報告書によって評価する。最終的には、修士論文発表会で評価される。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	35	毎回の報告内容で評価を行う	1.2.3
授業外での評価	35	事前・事後の報告書の評価する	1.2.3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	修士論文を評価する	1.2.3
その他	0		

テキスト	特に指定しない。
参考書	講義中に示す。
履修条件・他の科目との関連	研究調査特論と特別研究Ⅰを必ず受けていること。

授業コード	80003103	実務家教員による授業	-
授業科目名	特別研究Ⅱ		
授業担当教員	下條 善史		
成績担当教員	下條 善史		
開講年次	2年	開講期	前期、後期
		単位数	4単位

授業の目的・概要

修士論文作成を目指して、テーマを絞る。先行研究を踏まえて、自分独自のオリジナリティ性を論文の中で表現する。

到達目標

1. 先行研究などのデータを蓄積する。
2. 有効な仮説の設定を行う。
3. 仮説の立証により、独自性を出す。

授業計画

1. 事前に調査した題材に関して、議論を行い、テーマについての理解を深めてゆく。
2. そのテーマから派生する事象についての議論を行い、新しい研究テーマとなり得るかを検討する。
3. 自分なりの仮説を設定して、その仮説の立証が可能であるかを検討する。
4. 修士論文の完成を目指す。

事前事後の学習

毎回の課題に対しての報告を行い、事後には更なる発展を検討する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の発表やレポートに関して、必ずコメントをつけてフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

調査内容や報告書によって評価する。最終的には、修士論文発表会で評価される。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	35	毎回の報告内容で評価を行う	1.2.3
授業外での評価	35	事前・事後の報告書の評価する	1.2.3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	修士論文を評価する	1.2.3
その他	0		

テキスト	特に指定しない。
参考書	講義中に示す。
履修条件・他の科目との関連	研究調査特論と特別研究Ⅰを必ず受けていること。

授業コード	80003104	実務家教員による授業	-
授業科目名	特別研究Ⅱ		
授業担当教員	安達 康生		
成績担当教員	安達 康生		
開講年次	2年	開講期	前期、後期
		単位数	4単位

授業の目的・概要

修士論文作成を目指して、テーマを絞る。先行研究を踏まえて、自分独自のオリジナリティ性を論文の中で表現する。

到達目標

1. 先行研究などのデータを蓄積する。
2. 有効な仮説の設定を行う。
3. 仮説の立証により、独自性を出す。

授業計画

1. 事前に調査した題材に関して、議論を行い、テーマに関する理解を深めてゆく。
2. そのテーマから派生する事象に関する議論を行い、新しい研究テーマとなり得るかを検討する。
3. 自分なりの仮説を設定して、その仮説の立証が可能であるかを検討する。
4. 修士論文の完成を目指す。

事前事後の学習

毎回の課題に対しての報告を行い、事後には更なる発展を検討する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の発表やレポートに関して、必ずコメントをつけてフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

調査内容や報告書によって評価する。最終的には、修士論文発表会で評価される。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	35	毎回の報告内容で評価を行う	1.2.3
授業外での評価	35	事前・事後の報告書の評価する	1.2.3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	修士論文を評価する	1.2.3
その他	0		

テキスト	特に指定しない。
参考書	講義中に示す。
履修条件・他の科目との関連	研究調査特論と特別研究Ⅰを必ず受けていること。

授業コード	80005101	実務家教員による授業	-		
授業科目名	マーケティング政策特殊研究				
授業担当教員	宮崎 哲也				
成績担当教員	宮崎 哲也				
開講年次	1年	開講期	前期、後期	単位数	4単位

授業の目的・概要

本講義では、企業経営におけるマーケティングの重要性を踏まえ、立案、および実行までのプロセスを解説する。主な内容としては、マーケティングの基本コンセプトを踏まえ、製品戦略、価格戦略、チャネル戦略、消費者行動、インターネットマーケティング、CSRマーケティングに至るまでの理論や実践方法等を、事例を踏まえて研究する。

到達目標

1. 消費者行動やマーケティングの基礎理論を理解する。
2. マーケティング戦略における実践的知識を習得する。

授業計画

- 【第1回】オリエンテーション
- 【第2回】マーケティングの意義
- 【第3回】マーケティングの基本コンセプト
- 【第4回】戦略と戦術
- 【第5回】環境分析 (1) PEST分析、3C分析
- 【第6回】環境分析 (2) ファイブフォース分析・バリューチェーン分析
- 【第7回】環境分析 (3) SWOT分析・ABC分析
- 【第8回】製品戦略 (1) ドメインとポジショニング
- 【第9回】製品戦略 (2) 細分化・差別化
- 【第10回】製品戦略 (3) ターゲティング
- 【第11回】製品戦略 (4) 多様化・精鋭化
- 【第12回】製品戦略 (5) PLC・PPM
- 【第13回】製品戦略 (6) アンゾフの成長ベクトル
- 【第14回】イノベーション戦略
- 【第15回】総まとめ
- 【第16回】ブランドの意義と種類
- 【第17回】ブランドの機能
- 【第18回】価格戦略 (1) コストプラス型・マークアップ型
- 【第19回】価格戦略 (2) 新製品価格戦略・EDLP
- 【第20回】チャネル戦略 (1) チャネルの種類 (開放型・選択型・排他的・流通系列化)
- 【第21回】チャネル戦略 (2) サプライチェーンマネジメント
- 【第22回】プロモーション戦略 (1) AIDMAとプロモーションミックス
- 【第23回】プロモーション戦略 (2) AIDMAからAISACEPへ
- 【第24回】プロモーション戦略 (3) 広告・パブリシティ・PR・ロコミ効果等
- 【第25回】消費者行動
- 【第26回】リレーションシップマーケティング
- 【第27回】インターネットマーケティング
- 【第28回】企業価値経営とCSRマーケティング (1) 企業価値経営の意義
- 【第29回】企業価値経営とCSRマーケティング (2) 社会志向のマーケティング
- 【第30回】総まとめ

事前事後の学習

授業前は関連事項等をリサーチし、授業後は、授業で解説した内容を整理してノートにまとめる。

課題に対するフィードバックの方法

課題として提出されたレポート等に対して、講義中にコメントを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

授業における報告と議論への参加の程度、レポート等により総合的に評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業中の発言、プレゼンテーション等	1,2
授業外での評価	0		

定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	レポート試験	1,2
その他	0		

テキスト	必要に応じてプリント等を配布。
------	-----------------

参考書	『図解入門ビジネス 最新マーケティング理論と戦略がよくわかる本』(秀和システム)
-----	--

履修条件・他の科目との関連	本講義は、マーケティングの基礎知識を有していることを前提に進める。また授業においては、プレゼンテーションや討論を中心に進めるため、積極的に発言する姿勢が求められる。
---------------	--

授業コード	80006501	実務家教員による授業	-
授業科目名	外国文献特殊研究		
授業担当教員	植松 康祐		
成績担当教員	植松 康祐		
開講年次	1年	開講期	前期、後期
		単位数	4単位

授業の目的・概要

入手可能な情報量が膨大になっている今日、自分の調査テーマおよび研究課題に必要な情報が何であるか、どこにあるかを素早く発見する方法を身に着けることが重要になっている。調査や研究の目的に合わせ、国内外の外国文献のデータベースにアクセスし、短時間で効率的な検索を行い、求める情報を引き出すこと、また、その情報を整理する手法を学ぶ。入手した情報を読み、レポートにまとめる。

到達目標

1. 研究に必要な文献の検索方法を習得する。
2. 文献を評価し、ポイントを抽出できる。
3. 文献を評価し、文献の課題を特定できる。

授業計画

1. 博士論文執筆にあたり基本的な論文を調査し、購読する。その結果をレポートにまとめる。5件
2. 博士論文執筆にあたり、博士論文に関連のある論文を調査し、購読する。5件
3. 購読した文献のポイントをプレゼンテーションする。

事前事後の学習

文献読解を今後の研究の参考とする。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で行う。

成績評価の方法・基準(方針)

毎回の報告を評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	毎回の報告を評価します。	1.2.3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	80	レポート内容を評価	1.2.3
その他	0		

テキスト	プリントを配布する。
参考書	講義中に指示します。
履修条件・他の科目との関連	成果を専門研究演習につなげる。

授業コード	80006601	実務家教員による授業	-
授業科目名	専門研究演習		
授業担当教員	植松 康祐		
成績担当教員	植松 康祐		
開講年次	1年	開講期	前期、後期
		単位数	12単位

授業の目的・概要

講義内容に含まれる課題に特に興味を持ち、博士論文のテーマとすることを希望する学生について、入学時より3年間、学会におけるこれまでの研究の概活、調査方法、研究方法の指導を行う。最終的に博士論文の執筆までを指導する。

到達目標

1. 博士論文の完成

授業計画

テーマに応じて、文献研究と実習研究の配分を設定する。メインには受講者が主体で授業計画などを進める。

事前事後の学習

次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。
配布資料を見直し、演習問題を解きなおす。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に返却し、解説を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

平常点50%、レポート課題50%

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50		1
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50		1
その他	0		

テキスト	プリントを配布する
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	かなりの関連専門知識と語学能力を想定している